

V - 1 一般歯科医院における子どもの歯科
— 地域歯科保健活動と治療体系について —

吉 元 辰 二

吉 元 歯 科 • 鹿 児 島 市

子どもの歯科を考えるとき、治療（学）は重要である事は言うまでもない。しかし、それ以上に歯科疾患の特徴をみても予防（学）あるいは歯科保健管理と歯科保健指導が重要であると思われる。むし歯を治療する以前にむし歯を作らせないよう管理指導する事がいかに大切であるか。

一般歯科開業の中で子どもの歯科の院外活動として、地域の幼稚園の園歯科医、また小学校の学校歯科医を現在まで8年間させて戴いている。それまでの検診を中心とした保健活動から幼稚園保母と話し合いをもち、学校保健年間計画にも参画し、毎年少しづつ課題を増やし、現在フッ素応用も含めた歯科保健管理と母の会やP.T.Aでの学習会、職員研修等々の歯科保健指導を推進している。地域ぐるみで取り組み、最終的には子どもたちが自律的健康管理できる能力を育てる事をめざしている。今回は現在活動している状況について紹介する。

院内における臨床は、40年以上の開業歴をもち denture を中心とした一般歯科診療を行っている父と共に8年前より小児歯科も標榜して診療を行っている。狭い診療室で、診療体系の異なる父と、乳幼児から老人まで一般外来患者が多数来院しての診療である。そのような中で院内における子どもの歯科は、①予防（保健）指導と予防処置、②母親や患児とのコミュニケーション、③治療は 3 S – 治療の speedy , safty , success (予後良好) を特に念頭に治療している。一般歯科外来における当医院の子どもの歯科について、歯科診療体系も紹介する。